

自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する  
資質・能力を育成するための歌唱指導の工夫

～ブレインストーミングを活用した言語活動を手立てとして～

広島県立府中高等学校  
教諭 白石 沙誉子

# 主題設定の理由

これまでの  
授業

鑑賞教材「Oh happy day」／歌唱教材「Swing low, Sweet chariot」  
ゴスペル及び黒人霊歌の文化的価値や意味を歌唱表現に結びつける。

課題

表現意図をもたせ、十分な歌唱表現の工夫を促すことができていなかった。  
⇒ 生徒の意見を拾い上げ共有する方法や方針を明確にもっていない。

本研究では

自己のイメージをもち歌唱表現を創意工夫する資質・能力を育成する。  
⇒ ブレインストーミングを活用した言語活動を取り入れた学習指導の工夫

## II 研究の基本的な考え方

# 1 自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する資質・能力とは

**思考力、判断力、表現力等** の育成に関する目標

様々な経験の中で習得し理解した知識や情報を基に、

それらを結び付けたうえでどのような演奏をしたいか思考し、

表現意図を明確にすること

(1) 自己のイメージをもつとは

自己の表現意図をもち、それを

言葉や音によって他者と共有したり試行錯誤を重ねたりすることで、

より適切な表現を模索する過程

(2) 歌唱表現を創意工夫するとは

学習や経験の中で理解した知識や情報を基に表現意図をもち、それを

言葉や音によるコミュニケーションの中で試行錯誤しながら、

適切な表現を模索し選択していく力

(3) 自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する資質・能力とは

## 2 ブレインストーミングを活用した言語活動について

### (1) ブレインストーミングとは

アイデアを出すための討議法

自由奔放に意見やアイデアを出し合う会議法の一つ

ブレインストーミングの4原則は

- ・ **批判禁止** : 他者の意見を否定せず、自由な発言を促す。
- ・ **自由奔放** : 常識にとらわれない発想を重視する。
- ・ **量を求める** : 質より量を重視
- ・ **便乗発展** : 他者の意見に乗じて発展させアイデアの深化を図る。

## (2) 本研究におけるブレインストーミング

### 【方法及びルール】

- ・まず個人で楽譜の中の工夫したい箇所に書き込みをした付箋を貼る（ひとりブレインストーミング）。
- ・記入内容によって色を分ける。
  - ⇒ 赤：気持ちや工夫を言葉で記入する場合に使用
  - 青：音楽記号で記入する場合に使用
  - 黄：曲全体のイメージや工夫を記入する場合に使用
- ・同じ箇所に何枚も付箋があっても良い。
- ・個人の活動後、自分の作成した付箋付き楽譜は各自写真で記録に残す。
- ・拡大楽譜に全員の付箋を貼る。
- ・クラスで作成した付箋付き拡大楽譜を元に、赤・青・黄の付箋を結び付けながら、クラス全体で試行錯誤を重ね、歌唱表現の工夫を実践的に考える。

### III 研究の仮説と研究授業

# 1 研究の仮説と検証の視点と方法

## (1) 研究の仮説

ゴスペルの源流となった黒人霊歌の歌唱の学習活動において、ブレインストーミングを活用した言語活動を取り入れた学習指導の工夫を行う。

⇒ 音楽的特徴や歴史的背景を踏まえて自己のイメージをもち、歌唱表現を創意工夫する資質・能力を育成することができるであろう。

# 1 研究の仮説と検証の視点と方法

## (2) 検証の視点と方法

	検証の視点	方法
1	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫する資質・能力を育成することができたか。	ポートフォリオ 楽譜
2	自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫することに対して有効であったか。	生徒の発言 事後アンケート

## 2 生徒の学習状況の把握

◇ゴスペルの先行経験：約88%の生徒 なし  
約12%の生徒 漠然とした理解にとどまる

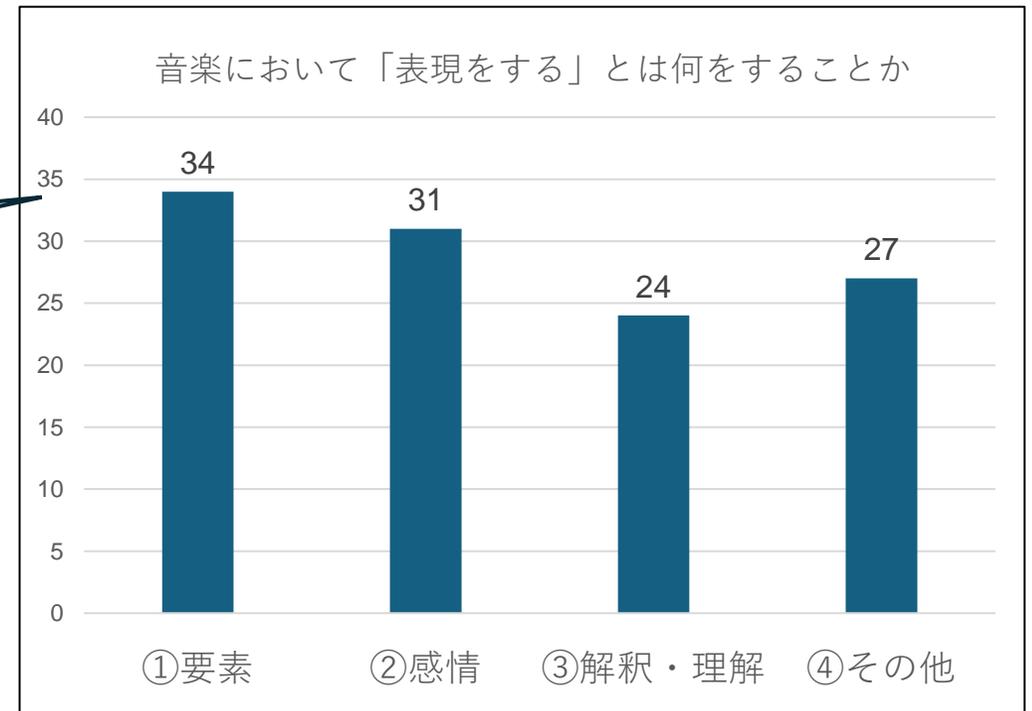
◇歌唱領域に関して表現の工夫に踏み込んだ内容を取り組むのは本題材が初めて

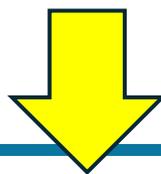
◇「音楽における表現とは何か」に対する記述

### 【分類】

- ① 音楽の要素に関する記述（強弱などで表す など）
- ② 自分の気持ちに関する記述（気持ちを込めること など）
- ③ 曲の解釈や理解に関する記述（曲の世界観を伝える など）
- ④ その他（体の動きや表情を豊かにする など）

※ 34%の生徒はいずれか1項目のみの回答





- ◇ 「ゴスペル」を導入教材として扱い、意欲・関心を高めるとともに表現の工夫に踏み込むための要素を丁寧に提示する。
  
- ◇ 歌唱表現を学習の集約的な活動と位置づけ  
↓  
具体的な手立ての工夫が必要  
↓  
ブレインストーミングを活用した言語活動を工夫することが  
自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する資質・能力を育成するのでは
  
- ◇ これにより生徒の「表現する」ことの価値観が  
どのように再構築されるかについても把握

### 3 研究授業の概要

#### (1) 研究授業の内容

◇対象 : 所属校 普通科第1学年 音楽 I 選択生 (63名)

◇授業科目 : 音楽 I (2単位)

◇題材名 : 黒人霊歌の魅力

◇教材曲 : 「Oh happy day (Edwin Hawkins作曲)」  
「Swing low, Sweet chariot (黒人霊歌)」

## 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、表現形態の特徴を生かして歌う技能を身につける。(知識及び技能)
- (2) テクスチャ、リズムを知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 文化的・歴史的背景に基づくゴスペルの奥深さや音楽的特徴に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、感性を高め、音楽文化に親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

# 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解している。</p> <p>②創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、表現形態の特徴を生かして歌う技能を身につけ、歌唱で表している。</p>	<p>テクスチャ、リズムを知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。</p>	<p>文化的・歴史的背景に基づくゴスペルの奥深さや音楽的特徴に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

# 学習指導計画（全6時間）

時

■ねらい ・ 学習活動

1

■ゴスペルソング「Oh happy day」の歌詞が表す心情及び曲の表情や味わいなどに関心をもつ。

- ・ 「Oh happy day（『天使にラブソングを2』より）」で、ゴスペルとはどんな音楽か知り、興味・関心をもつ。
- ・ 歌詞を音読したり歌ったり楽譜を分析したりして、ゴスペルの音楽的特徴をつかむ。

1

■「Oh happy day」の音楽的特徴と、その特徴を生み出した歴史的背景を理解する。

- ・ 「Oh happy day」の背景となる文化や歴史などについて、教師の説明を聴いたり資料を見たりするなどして、なぜこのような特徴の音楽が生まれたのかを考え、自分の考えを発表し合う。
- ・ 歌詞を正しく捉えるために、ゴスペル及び黒人霊歌の歴史的背景を知り、再度音楽を聴いたり歌ったりしながらお互いの意見を確認し合う。

2

■黒人霊歌「Swing low , Sweet chariot」を歌唱することで、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受取る。

- ・ 黒人霊歌「Swing Low , Sweet chariot」を歌えるようになる。
- ・ 自分たちの歌唱したものの録音を聴き、どのように歌えるようになりたいか表現意図をもつ。

2

■「Swing low , Sweet chariot」の歴史的背景や音楽的特徴を踏まえ、表現意図をもって歌唱する。

- ・ 「Swing low , Sweet chariot」の背景と歌詞のもつ意味を知る。
- ・ 音楽的な特徴と歴史的な背景を踏まえ、ブレインストーミングを活用してどのように歌いたいと考え、歌唱する。
- ・ 曲にふさわしい音楽表現となるようにクラス全体やパートで、コール&レスポンスやアカペラのよさや持ち味を生かした歌い方などをいろいろと試す。
- ・ 表現意図をもって歌唱した際の録音を自分たち自身で評価するとともに、創意工夫を生かして「Swing low, Sweet chariot」を歌う。

## (2) 教材について ～黒人霊歌 (Negro Spirituals) とは

### ① 歴史的背景

- ・アメリカ合衆国の黒人が奴隷時代に作った宗教的な民謡の一種で、この言葉が文字の上に残されているのは**1860**年代以降のことである。**1860**年よりはるかに古くから黒人のあいだに歌われていたが、その作者も、書かれた時期もわかっていない。
- ・スピリチュアルズが作られたのは**19**世紀初頭ごろからと考えられるが、黒人たちは教会以外の集りにスピリチュアルズを合唱し、信仰のうえの救いとともに現実のうえの逃避、脱走などへの願いをかけて歌ったものと思われる。
- ・〈フィスク・ジュビリー・シンガーズ **The Fisk Jubilee Singers**〉によって**1871**年以来アメリカ合衆国各地、のちにロンドンにも紹介されひろく愛されるようになった。
- ・黒人奴隷たちの音楽は、初期のアフリカ的なダンス音楽から発展し、次第に歌唱を中心とした形へと移行。やがて労働に付随する歌となり、キリスト教信仰の受容に伴って宗教的な歌へと変化し、最終的には独創的な黒人霊歌として文化的な変容を遂げた。

## (2) 教材について ～黒人霊歌 (Negro Spirituals) とは

### ② 音楽的な特徴

- ・ シンコペーションを多用したリズム構造
- ・ コール&レスポンスによる歌唱形態
- ・ ブルー・ノートを用いた旋律
- ・ 即興性の高い演奏スタイル
- ・ 身体的表現 (ボディアクション) の活発さ



これらの音楽的特徴は、黒人霊歌が生まれた歴史的・社会的背景と密接に関係しており、白人音楽からも影響を受けながら、必然的に形成されたものであると考えられる。

(2) 教材について ～黒人霊歌 (Negro Spirituals) とは

③ 歌唱教材曲「Swing low, Sweet chariot」について

【教材として選定した理由】

- ・コール&レスポンスやシンコペーションの多用といった音楽的特徴を実践的に活用できる。
- ・歌詞に隠されたダブルミーニングや、黒人奴隷が北方への逃亡を図る際に歌った「暗号ソング」としての背景を持つなど、歴史的・文化的な意味の深さがあり、多様な表現意図を引き出しやすい。
- ・メロディや構成が比較的シンプルであるため、表現の工夫や解釈に重点を置いた活動が展開しやすい。

## IV 授業実践の内容及び結果

# ブレインストーミングを活用した学習活動の結果

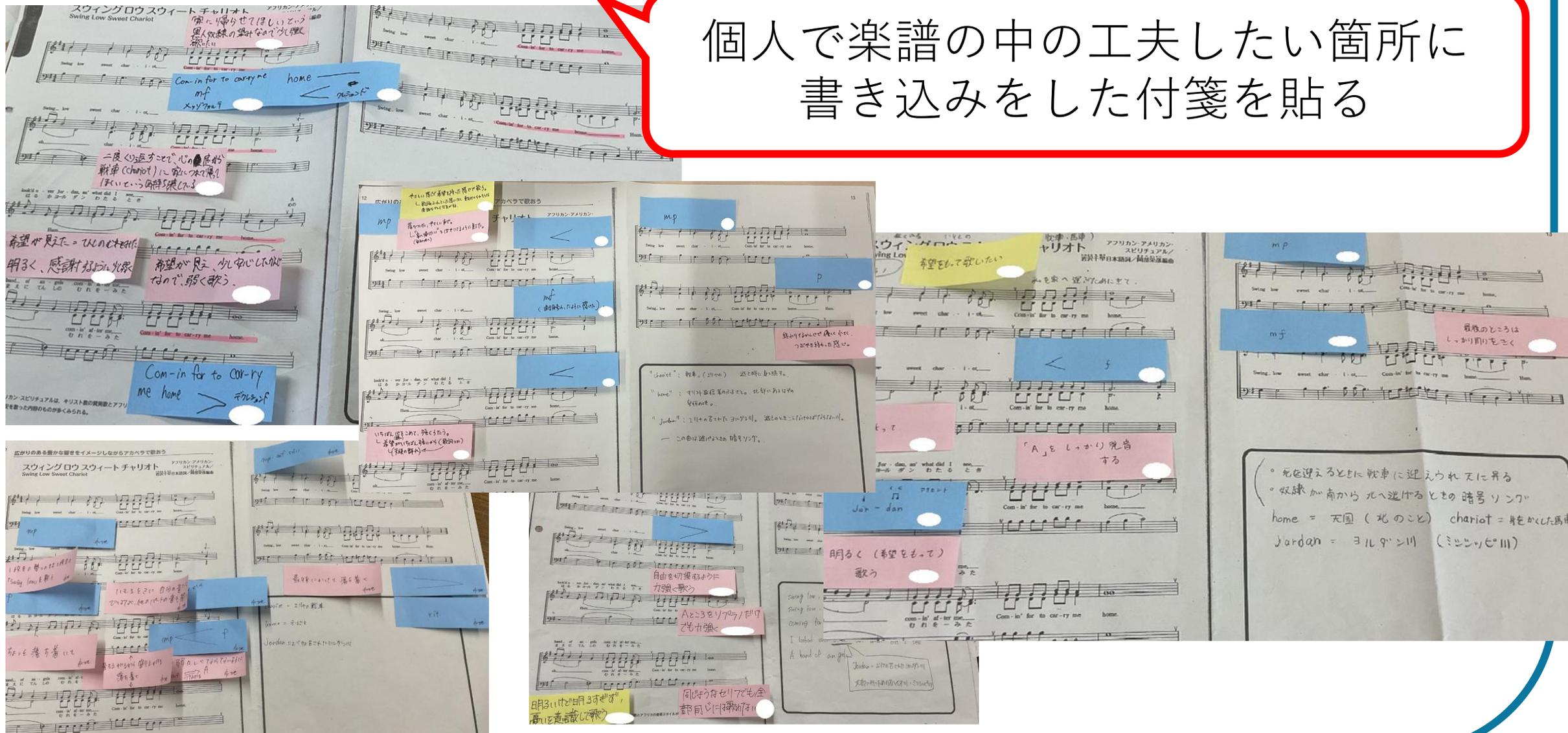
## 検証の視点と方法

	検証の視点	方法
1	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫する資質・能力を育成することができたか。	ポートフォリオ 楽譜 生徒の発言
2	自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫することに対して有効であったか。	事後アンケート

(1) 自己のイメージをもって  
歌唱表現を創意工夫する資質・能力を  
育成することができたか

# ① 「ひとりブレインストーミング」を行った楽譜による分析

個人で楽譜の中の工夫したい箇所に書き込みをした付箋を貼る



ゆれているように歌う

音楽記号（青）を多く採用  
フレーズを意識 音高に合わせた強弱の提案

ゆれているように歌う

ソプラノの声か、  
ように歌うが、アルト、男声の  
音が聞こえるようにする

mp

mp

P

I look'd over...を  
なめらかに歌う

mf

優しい歌声で  
し〜かり伸ばす

よく目立たせる！！

よく目立たせる！！

落ち着いて響きのある声で  
歌う。

落ち着いて響きのある声で

1つ1つ意味に合う歌い

1つ1つ意味に合う歌い方で

リズムから生じる雰囲気言語化

アルトと男声が少し目

よく目立たせる！！

生徒A

自由な気持ちで感情豊かに歌う

しながらアカペラで歌おう

Swing Low Sweet Chariot

アフリカン・アメリカン

<

優しくおとなしめに

優しくおとなしめに

優しくおとなしめに

優しくおとなしめに

悲しい感じ

悲しい感じ

悲しく+祈り

悲しく+祈り

<

曲の構造を理解  
⇒背景やテクスチャを意識し  
自分なりのストーリーをもって解釈

祈る感じ

生徒B

込めたい気持ちやリズムから感じ取った雰囲気  
を強弱と関連付けて考えている

Swing low sweet char - i - ot, Com - in' for to car - ry me home,

Swing low sweet char - i - ot, Com - in' for to car - ry

mf

うれしそうな感じ  
はねるような感じ(少し)

mf

うれしそうな感じ  
はねるような感じ(少し)

com - in' af - ter me, Com - in' for to car - ry me home.

Swing low sweet char - i - ot, Com - in' for to car - ry me home,

Swing low sweet char - i - ot, Com - in' for to Ham

mp

「行きたい！」というよりも  
「行けたらいいなあ」のような気持ち

mp

「行きたい！」というよりも  
「行けたらいいなあ」のような気持ち

生徒C

① 「ひとりブレインストーミング」を行った楽譜による分析

背景や音楽的な特徴

旋律の動き 和音の響き  
リズムによる効果

結びつけたイメージを可視化・言語化し  
整理することに効果を発揮

**思考の深まり**

「自己のイメージをもち音楽表現を  
創意工夫する資質・能力」の育成



## ② 拡大楽譜でアイデアをクラスで共有するプロセスの分析

付箋の内容を関連付けながら、  
歌唱表現の工夫を実践的に考える。



【1年1・2組とのやりとり】

T：全体的に見た時に、付箋多いなと思う部分がある？ みんなの意見が集中しているところ。

S1：一番最後。

T：そうだね。それから？

S1：各段（4小節ごと）の終わり。

T：そうだね、（楽譜を指し示しながら）このラインが多いよね。なんでここが多いんだろう？

S2：締めだから。

T：締め。そう、締めだね、何の締め？

S2：フレーズ？

T：そう！フレーズのまとまりを大事だと感じて、フレーズの終わりにみんな意見を出してくれている。

付箋が特に集中している箇所から、自分たちが無意識に  
フレーズのまとまりを感じて歌い方を考えていたことに気付いた。

よびかける  
要領をつくる  
コール(女子) & レスポンス(全体) になる。  
広がりのある豊かな響きをイメージしながらアカペラで歌おう 受ける。

# スウィングロウスイートチャリオト

Swing Low Sweet Chariot

アフリカン・アメリカン・スピリチュアル／

岩渕千早日本語詞／岡田榮彦編曲

mp  
Swing low sweet char - i - ot, Com-in' for to car-ry me home.

やさしく mp.

次に何かな

表め

希望

切実に = 言葉も大事に

rit.

悲し + 祈り

look'd o - ver Jer - dan, an' what did I see.  
はる かヨルダン わたる とき

Hum.

Com-in' for to car-ry me home.

希望

of an - gels com-in' af-ter me, -  
まえに てんしの われを - みた

oh (希望) com-in' af-ter me, Com-in' for to car-ry me home.

われを - みた

■アフリカン・アメリカン・スピリチュアルは、キリスト教の賛美歌とアフリカの音楽スタイルが融合したもので、聖書の言葉を引用するなど、心の平安を歌った内容のものが多くみられる。

1回目と変える

mf  
Swing low sweet char - i - ot, Com-in' for to car-ry me home,

やさしく mp.

次に何かな

希望

切実に = 言葉も大事に

rit.

悲し + 祈り

look'd o - ver Jer - dan, an' what did I see.  
はる かヨルダン わたる とき

Hum.

Com-in' for to car-ry me home.

希望

of an - gels com-in' af-ter me, -  
まえに てんしの われを - みた

oh (希望) com-in' af-ter me, Com-in' for to car-ry me home.

われを - みた

希望

やさしくおだやかに  
(歌詞、曲調)

+  
明るさ (希望)

やさしい  
おだやかに

明るさ

やさしくおだやかに

明るさ

やさしくおだやかに

明るさ

1年3組(9名)

【1年3組とのやりとり】

T：だんだん小さくとかデクレッシェンドとか書いている人が多い。これはみんなそんな感じ？

The image shows a musical score for the hymn 'Swing Low, Sweet Chariot'. It consists of two staves: a treble clef staff for the melody and a bass clef staff for the accompaniment. The key signature is one sharp (F#). The lyrics are written below the notes. A red rectangular box highlights the section starting with the lyrics 'Com-in' for to car-ry me home. Hum.' This section shows a decrescendo in dynamics, indicated by a hairpin symbol.

S：（頷く）

T：一人「coming for to carry me」はだんだん強く、

「home」でだんだん弱く、と書いてくれている人がいる。（3小節間デクレッシェンドにするのと）どっちがいいかな？一度歌ってみようか。

S：（両パターンで歌唱）

T：どっちが好き？どっちがどうだった？

S1：膨らませたい。音の動きと連動しているから。

S2：5小節のまとまりを考えるならデクレッシェンドだけがいいと思う。

S3：「やさしく」を重視するならデクレッシェンドだし、「希望」を重視するなら膨らませる。

強弱を考える際には音の高低やフレーズのまとまり感、表したい気持ちなど、**様々な要素が関わっている**という気づきがあった。



【1年4・5組とのやりとり】

T：1回目のAと違う歌い方をしたいところを理由と一緒に教えて欲しい。

S1：B（希望を感じる部分）を受けてのAになるので、1回目より最初の部分は（音量的に）出ていいと思う。1回目はmpだったので、mpとmfの間くらい。

S2：全体的に、1回目より気持ちが全面に表れていいと思うから、全体的に1回目よりしっかり歌いたい。

S3：最後はppくらいまでしっかり落としたい。最後だから。

S4：1回目は「やさしさ」を感じる始まりでその要素が強かったけど、ここは「希望」が大きくなっているから、1回目より全体的にしっかり歌いたい。

S5：最後の音の動き方が（アルトと男声）それまでと違うので、出過ぎるわけじゃないけど目立たせてからおさめたい。

S6：4小節目のクレッシェンドはしない。付箋も1回目より少ない。（アルトと男子の）音が変わらないから。

同じ歌詞（ソプラノは同じ音）であっても、曲全体の流れや和音により、歌い方が変わってくることに気付いた。

## ② 拡大楽譜でアイデアをクラスで共有するプロセスの分析

視覚的な分かりやすさ

工夫を考えるべき  
箇所の把握

新たな視点の  
提供

付箋の色を記入内容によって区別

音楽記号（青）の根拠を言葉（赤）から  
見つけ出すことができる。

【赤付箋】

- ・背景からイメージした込めたい気持ち
- ・言葉の解釈
- ・音高やリズムから感じられる雰囲気

実践（歌唱）をしながら創意工夫していく  
⇒音や音楽及び言葉によるコミュニケーション  
＝芸術科音楽の特質に応じた言語活動となった

イメージを他者と共有しクラス全体で表現の工夫を試行錯誤するための一助

「自己のイメージをもち音楽表現を  
創意工夫する資質・能力」の育成

(2) 自己のイメージをもって  
歌唱表現を創意工夫する資質・能力を  
育成することに有効であったか

## ① ポートフォリオの記述による分析

こちらが与えるテーマに沿って授業内容を整理して記録  
⇒ 振り返りを行い、題材の学習の流れを見返すことができる

歌唱活動後に与えたテーマ

「『Swing low, Sweet chariot』の歌い方を考える活動をして  
みてどうだったか振り返ろう」に対する生徒の記述

## 生徒 歌い方を考える活動の振り返り

A

この曲の歌い方を考えるときに物事を結びつけたり共通点を見つけたりすることができた。例えば、1段目の最後では願いの強さを表すことと音が上がっていることを結びつけてクレッシェンドにすると良いという結論を出すことができた。

B

「常夜灯のように」というクラスのテーマを意識するために、強弱の工夫をしたり、コール&レスポンスの部分を覆いかぶさるようにしたりするなど、いろいろな工夫ができた。それぞれがイメージしていることが違うと汚く聞こえたり何も伝わらなかったりするけど、ひとつにしぼることで一体感が生まれ、温かさがあった。その時代の人達もそれぞれ少しずつ違う思いを込めて歌っていたのかなと、歌ったり話し合ったりする中で思った。

C

期待や願いを表現するために音の高さに合わせてクレッシェンドを入れたり、音に変化があるところをはっきり歌ったり、コール&レスポンスやシンコペーションを意識したりするなど、今まで学んだことをフル活用して自分たちが表現したいことに合わせて考えるのが楽しかったし、学んだことを実際に使えて嬉しかった。

D

クレッシェンドやデクレッシェンドはみんな同じような場所を示していたけど、歌詞や歴史的な背景に注目したりすると、やさしく・希望・弱く・強く・明るく・暗くなど一人一人感じ方が違って新しい視点から曲を見ることができた。また、他の人の言葉を聴いて、「それが言いたかった！」という意見も多くあった。ひとつの音楽に対しても一人一人違う思いを感じているということが分かった。

E

その曲の歴史などを知った後に、付箋を使って一つ一つ細かく歌い方を考えていくということは今までにない初めての体験で、仲間と意見を交流することでより考えを深められた。歌い方に答えはないので、他クラスではまた違った歌い方が出るのだろうなと思って、音楽のおもしろさを再認識した。

生徒

## 歌い方を考える活動の振り返り

A

この曲の歌い方を考えるときに物事を結びつけたら共通点を見出し、自分たちが考えたこと（例えば1段目の最後では願いの強さを表すことと音が）を出すことができた。

**意見の共通点を見出し、複数の視点を結び付けて  
思考を深めている。**

B

「常夜灯のように」というクラスのテーマを意識するために、強弱の工夫をしたり、コール&レスポンスの部分  
を覆いかぶさるようにしたりするなど、  
汚く聞こえたり何も伝わらなかったりす  
時代の人達もそれぞれ少しずつ違う思いを込めて歌っていたのかなど、歌つたり話し合つたりする中で思つた。

**合唱におけるイメージの統一の重要性を認識している  
この曲を歌い継いできた人々に思いを馳せている。**

C

期待や願いを表現するために音の高さに合わせて歌ったり、コール&レスポンスやシン  
自分たちが表現したいことに合わせて考

**これまでに学んだ知識や技術を  
創意工夫に活用することの意義と喜びを実感**

D

クレッシェンドやデクレッシェンドはみんな同じような場所を示していたけど、歌詞や歴史的な背景に注目した  
りすると、やさしく・希望・弱く・強く・明  
できた。また、他の人の言葉を聴いて、  
しても一人一人違う思いを感じているとい

**意見交流を通じて多様な考え方に触れ、  
自身のイメージを再発見する契機を得ている。**

E

その曲の歴史などを知った後に、付箋を  
い初めての体験で、仲間と意見を交流  
ではまた違った歌い方が出るのだろうな

**音楽表現に正解がないことの面白さを感じ、  
他クラスの表現にも関心を寄せている。**

# ① ポートフォリオの記述による分析

## 【ひとりブレインストーミング】

自己のイメージを深める

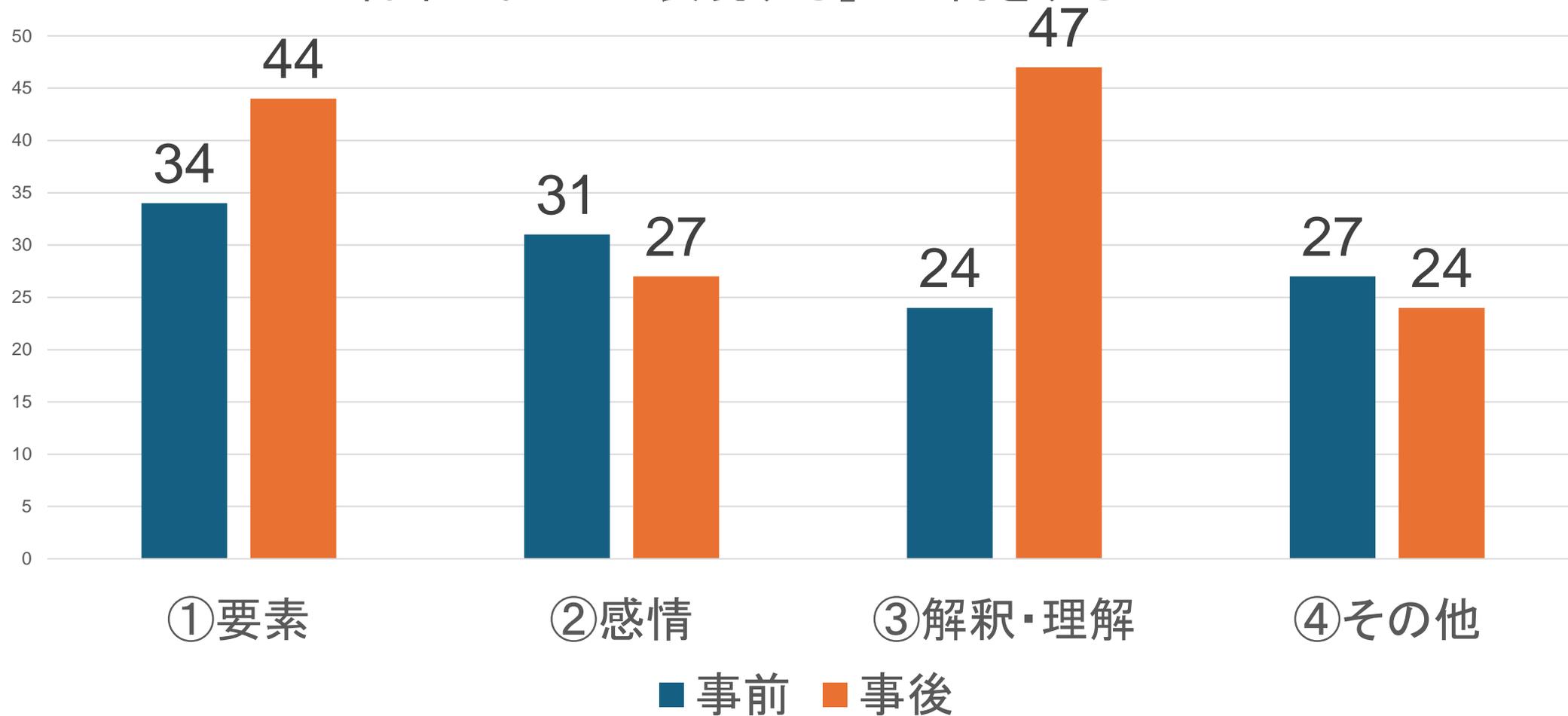
## 【拡大楽譜でアイデアを共有するプロセス】

他者の意見との共通性  
自己の意見の固有性などを認識しやすくする

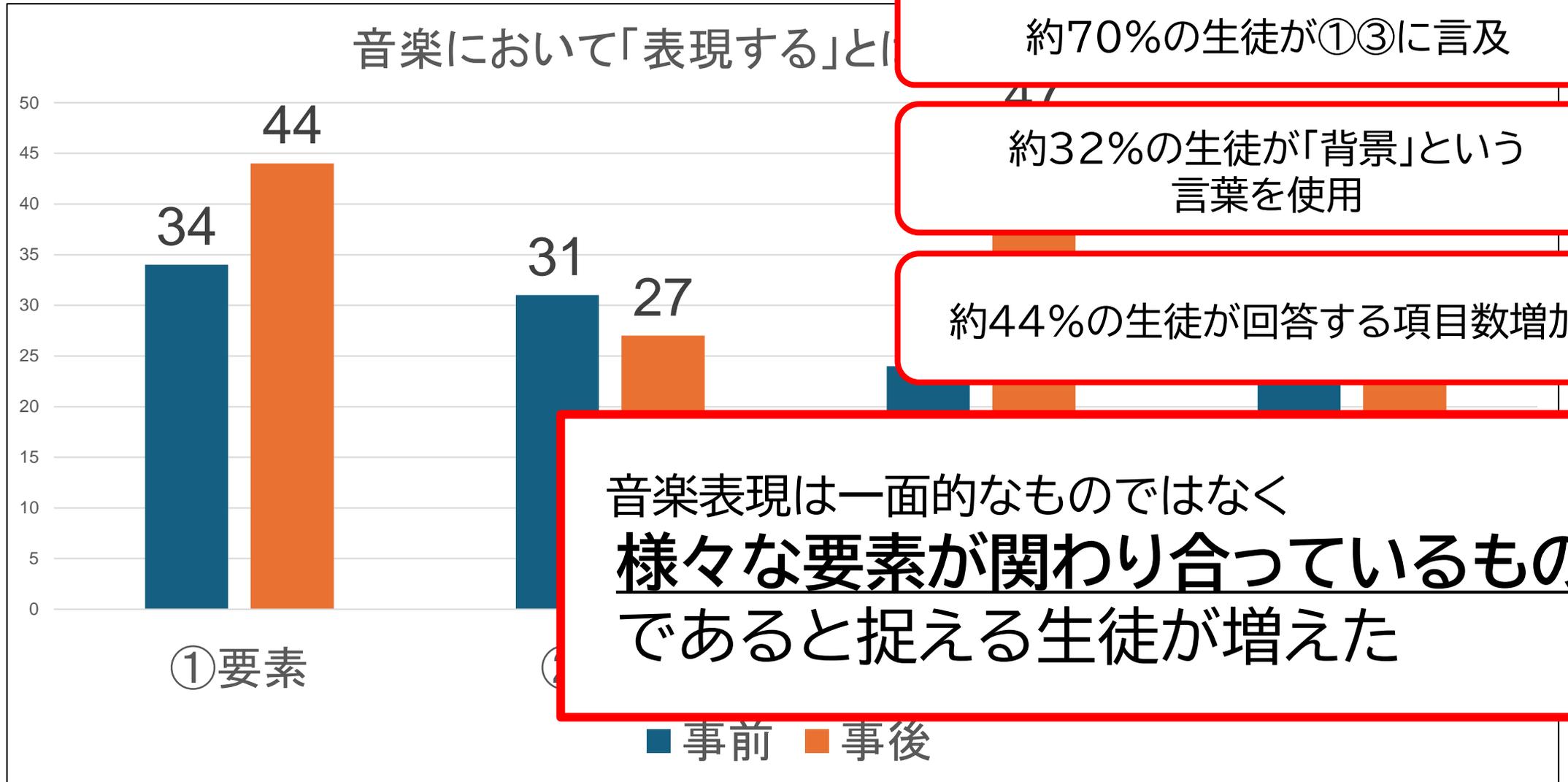
「自己のイメージをもち歌唱表現を  
創意工夫すること」に有効

# ① ポートフォリオの記述による分析

音楽において「表現する」とは何をすることか



# ① ポートフォリオの記述による分析



## ② 事後アンケートによる分析

付箋を使って歌唱表現について考える活動は、曲に対するイメージをもったり工夫を考えたりすることに役立ちましたか。

とても役立った	71.2 %	100 %
役立った	28.8 %	
どちらともいえない	0 %	0 %
あまり役立たなかった	0 %	
役立たなかった	0 %	

## ② 事後アンケートによる分析

思考が可視化されイメージをもちやすくなった。

他者との比較をしやすく、  
更に自分の考えを広められた。

自分の意見を整理すること  
他者と意見を共有していくこと  
⇒ 両面においてメリットが大きい

赤と青で記入内容を分けることで  
その結びつけ方を考えやすかった。

意見が重なる部分や、同じフレーズでも  
付箋の数が違うことなどの気付き

視覚的な分かりやすさ

「自己のイメージをもち音楽表現を  
創意工夫すること」に有効

# V 研究のまとめ

# 1 研究の成果

指導の工夫

黒人霊歌の歌唱学習における表現の工夫を考える過程

**ブレインストーミングを活用した授業実践**

結果

自己のもつイメージを可視化・言語化し整理することに効果を発揮  
＋  
イメージを他者と共有しクラス全体で表現の工夫を試行錯誤するための一助  
↓  
自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する資質・能力を  
育成することに有効である

## 2 課題

### 苦手な生徒に対する支援

### 表現意図の選択過程

- ・ 多数決的な決め方 ⇒ 少数意見の扱い
- ・ 教員の誘導性 グループ活動の取り入れ方

### 技能と表現のバランス

歌唱において技能と表現は表裏一体であり  
表現を高めるためには技能面の指導も不可欠

- ・ 音楽だからこそ可能な「創造性を育むプロセス」を重視した学びの在り方
- ・ 今回の手立てが器楽や鑑賞といった他領域にも応用可能か

# 引用・参考文献・参考資料

- 文部科学省（平成30年告示）：『高等学校学習指導要領』
- 文部科学省（平成31年）：『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説芸術編』
- 岸直美、鉄口真理子（2022）「高等学校音楽科における創造的問題解決を実現する創作の授業構想  
—鳴らし方とイメージに着目して—」
- 今井章絵（平成29年）「思いや意図をもって歌う力を育てる音楽科授業の在り方  
—言葉や音楽で表現の工夫を伝え合う活動を通して—」
- 伊藤政英、高橋暁子（2024）「ブレインストーミングの活性化を図るためのアイスブレイク手法の設計」日本教育メディア学会研究会論集No.57 p.78-81
- 小高良友（2011）「ブレインストーミングの効用—臨床社会学や文章作成法との関連で—」東海学院大学紀要 5 p.41-44
- 福間誠之（1986）「ブレイン・ストーミング」医学教育、17(6) p.454-456
- 加賀秀和、浦野弘（2014）「ブレインストーミング法カードを用いた対話を目指す小学校での授業実践」日本教育工芸会論文誌 38（Supp1） p.37-40
- 澤邊裕子（2015）「協働学習場面におけるブレインストーミング促進用カードゲーム教材の活用とその効果」宮城学院女子大学 研究成果報告書
- 伊藤雅美（2013）「仲間と音楽のよさを共有し、音楽表現の思いや意図を高め合う授業づくり」
- 中村亜沙子（2014）「思いや意図をもって表現する力を高める小学校音楽科指導の工夫  
—楽譜を手掛かりに音楽を形づくっている要素を感じ取り、表現の工夫に生かす活動を通して—」
- 「新訂 標準音楽辞典」（1992）音楽之友社、p.1291
- 小川洋司（2001）「深い河のかなたへ 黒人霊歌とその背景」音楽之友社、p.2
- ウェルズ恵子（2008）『黒人霊歌は生きている 歌詞で読むアメリカ』岩波書店
- ウェルズ恵子（2016）『アメリカを歌で知る』祥伝社新書
- 塩谷達也（2016）『ゴスペルのチカラ』いのちのことば社
- NHKラジオ第2「カルチャーラジオ芸術その魅力『ゴスペルソングの歴史～讃美歌から現代まで～』」（2019）